

古き良き昭和時代。その雰  
囲気の色濃く残す高砂銀座商  
店街西端で、茶褐色のタイル  
を用いたモダンなビルが町を  
行き交う人を見守っている。

1939（昭和14）年に完  
成した国登録有形文化財「高  
砂通運旧本社屋」。木造2階  
建ての伝統的な軸組構造で、  
れんが壁の下地にスクラッチ  
風のタイルを貼った擬洋風の  
外観が目を引く。

運送業者「中須運送店」（現  
・高砂通運）の本社として約  
30年間にわたって使用され  
た。明治から大正時代につ  
て、運送の主役は水上から陸

高砂市 国登録

高砂通運旧本社屋

## 昭和の面影残すモダンさ

上へと変わり、建設当時は鉄  
道と貨物自動車が運送の主流  
に。国鉄高砂線（廃線）の高  
砂駅東側に本社屋として構  
え、利便性から同社は地元で  
発展を遂げていく。



昭和初期に建てられた高砂通  
運旧本社屋＝高砂市高砂町鍛  
冶屋町

「高砂の地において、産業  
近代化を象徴する重要な建築  
物」と強調するのは建築家の  
吉田文男さん（66）＝同市曾根  
町。細かい縦線が入ったタイ  
ルや外観のデザインは、大阪  
や神戸の陸・海運に関連した  
建物に共通しており、「はや  
りの特徴を取り入れること  
で、建物は駅前のランドマー  
クの存在に。企業は時代の最  
先端を行くイメージにしたか  
ったのでは」と分析する。



地元の大工が見よう見まね  
で作った三角形の出窓には、  
欧州の洋館に見られるキュー  
ビズム（立体派）の様式が感  
じられるが、出入り口や窓に  
は和の趣が。「大きく派手な  
建築物ではないが、多様な要  
素が混ざっているのが面白  
い」と吉田さん。71年に本社  
を移転した後は倉庫になって  
いたが、文化財指定を視野に  
2015年に改修。1階は飲  
食店、2階は高砂町の歴史や  
文化を紹介する資料館となっ  
た。

「建築という文化を消化し  
ていけない」と吉田さん。  
暮らして溶け込んだ建物とし  
て新たな役割を感じた。

（津田和納）

メモ 2017年3月に県の景観形成重  
要建造物に指定。同年6月に国登録有形文  
化財に登録された。2階の高砂町歴史資料  
館は11～16時開館で入館無料。高砂通運  
079・443・5151

アクセス 山陽高砂駅から南へ徒歩約10  
分。車は国道2号加古川バイパス加古川西  
ランプから県道43号線を南下する。